





金草鞋十六編二十四輩御舊跡巡拜凡例

親皇聖人御舊跡並草鞋順礼の道に悉く記せしむるに
依りて中記せしむるに御礼に記せしむるに
せんしむるに帖敷高きとせしむるに
り且と案内せしむるに
ありと案内せしむるに
その通行紙様くせしむるに
國々所跡のうち上坪の分岐迄は
其定案より分岐せしむるに
御礼所并基壇並物本悉く
又改六未初より

十返舎一九誌

止

親鸞 聖人 御舊蹟廿四輩巡拜道中記

武藏 禁地御堂浅草

御堂 鎌田 六木賣 宇

下終 三村 一ヨ 辺田

横曾根 一リ 天神 一 太高山

新地 大坊 一 小島 一

下妻 一 大坊 一

常陸 大曾根 三 柿岡

一 大増 一 板敷 一

稲田 一 笠間 一 宇

宇沢 一 富田 一 鳥巢

一 俣子 一 岩舟 一

添 一 水戸 一 下町 一 上野

下野 鳥山 竹部 一

金沢 一 宇

陸奥 棚倉福島 一 仙

甚 一 松島 一 南部 盛岡 一

出羽 六郷 七十一 一

越後 新發田 一 新郷 一

鳥屋野 一 保田 一 半兒島

一 彌彦 柿崎 一 高田

一 國府 一 五智 一 龜伏

一 三ノ田 海 一

越中 外浪 富山

賀 三市 一 半濱 経田

金沢 一 宇

越前 動橋 一 半吉崎

一 細呂 一 半福井 一 半

鳥羽 鯖江 一 宇

近江 最勝寺 一 大物

山城 比叡山 京都

虎石町 月見町

西六条 奥正寺

東六条 佛光寺

崇大院 東大谷 栗谷

近江 山科 大津 近松

一 宇 金木 宇 木部

一 宇 大垣 一 宇

多藝島 黒搜 一 宇

竹口鼻

尾張 小田井 一 宇 古屋 一

三河 一里山 西畑野寺

一 針崎 一 宇 佐々木 一

一 来子 一 矢作 岡崎 一 宇

藤井 一 宇 吉田 一 宇

遠江 濱松 一 宇 掛川

駿河 一 宇 藤枝 一 宇

府中 一 宇 奥津 一 宇

一 宇 府中 一 宇 栗原

一 宇 等カ 一 宇 真木

伊豆 一 宇 三嶋 一 宇

相模 箱根 一 宇 小田原 一

一 宇 下 一 宇 国府津 一 宇

一 宇 半倉田 一 宇

鎌倉 喜住柄 一 宇 野日

新程 谷 千頭

上野 厩橋 赤城山

金草鞋 十六編

一 宇 返舎著 近刻

一 宇 編八相及軍勝 一 宇

一 宇 推現系 一 宇 宇

一 宇 一 宇 根 一 宇 宇

一 宇 一 宇 一 宇 宇

一 宇 一 宇 一 宇 宇

一 宇 一 宇 一 宇 宇

一 宇 一 宇 一 宇 宇

一 宇 一 宇 一 宇 宇



D

あやうき
花さけ
うんえん

U

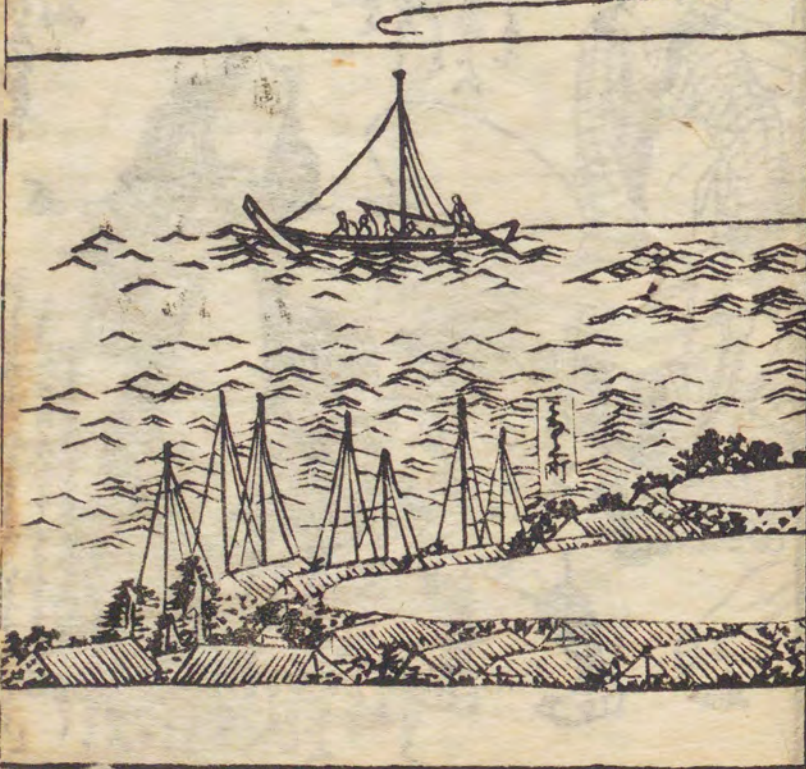
狂
嘆
抄

上ノ子

[illegible][illegible]

This is a black and white woodblock print illustration, likely from a Japanese book. The scene shows a man and a woman walking through a wooded area. The man, on the left, is balding and wears a kimono with a diamond pattern. He carries a large, round object (possibly a drum or a pot) on his back. The woman, on the right, has her hair styled in a bun and wears a kimono with a wavy pattern. She holds a small object in her hands. They are surrounded by pine trees and bamboo. At the top of the image, there is handwritten Japanese text in kuzushiji script. At the bottom, there is more handwritten text, including what appears to be a signature or publisher's mark.

岩井町



可なりとあるのみなりとのまゝにあらうと
 思ふたが、おとんきでうてむ
 のまじりではあらうとありう



まろや
きんぎょ
からい
あきら
おのれ
とらぬ
はるに
あらふ
あつた
あつた
あつた



あつた
あつた
あつた

みわとりの
ちびやう
てふり
ちびやうの干
てふり
ちびやう

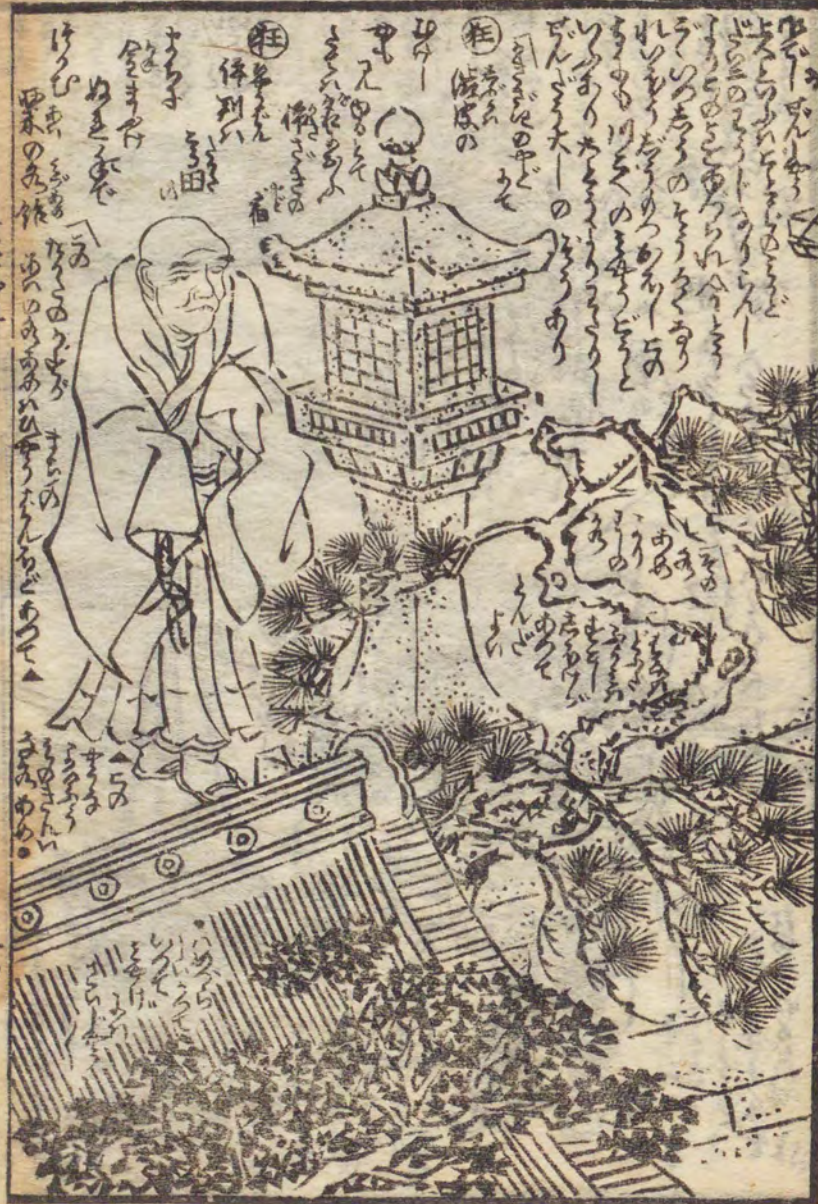
[illegible]

鳥山子

七

[illegible][illegible]

江戸の町に
 りあふちやど ねれり
 らのちやど
 とうろく



[illegible]

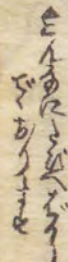
さそ
うで
のちが
も大に
うづ
やうと
うと
のと
を

1666



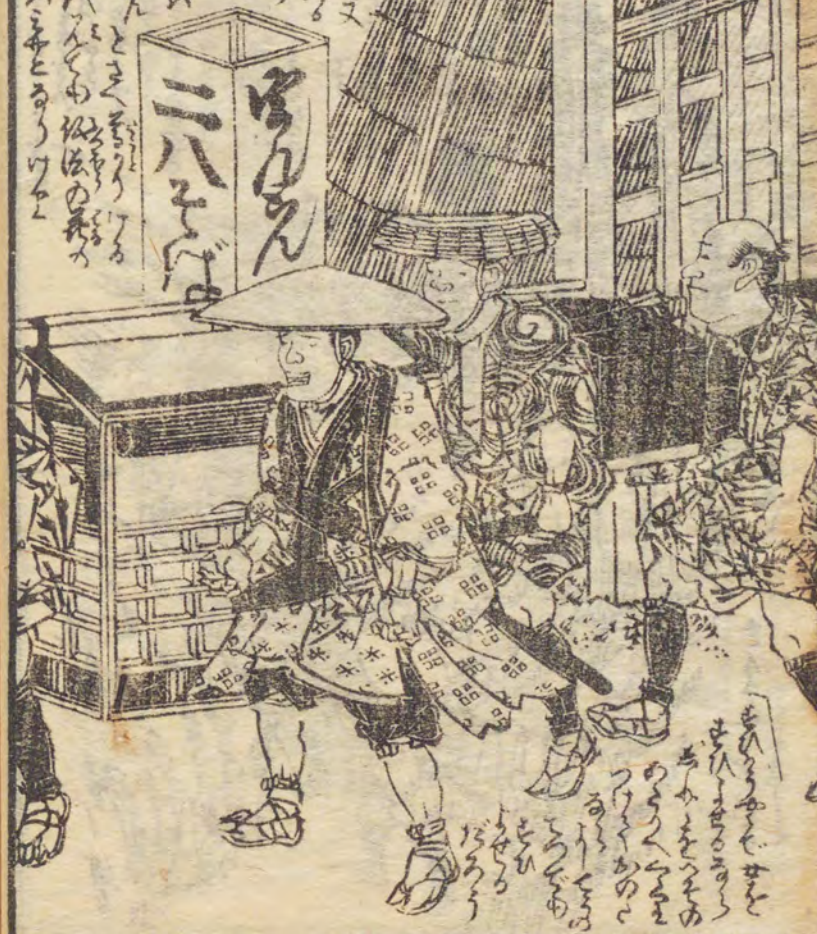
十返舍一九著

狂 ひこゝろをいふ
 人の身の危殆こそを動さず
 されどやそのうちひそごとくは

[illegible]



それ、中々の世に
うしろのむくもさあ、あつた
おれをどきどきだ
あそ
あふ

[illegible]

まひろくをて せを
まひろくをて せを
まひろくをて せを
まひろくをて せを
まひろくをて せを

[illegible]

可なりと云ふ
ものゝうへに
十ヶとヒリの
つゝと云ふ
ものゝうへに

せきせんを
 むくす
 のふりへ
 あつて
 それを
 ひらいて
 うき
 はらひ
 わとの
 はらを
 しれすこ
 うら
 それで
 のつて
 ふと
 のつて
 ぬくと
 やがそ
 せうべん
 あつて
 あつて

[illegible]



東坡先生集卷之四

あつた

大正の初めに
 出て来て人々
 多くてうらや
 みにうらやま
 しく思ふもの
 ありきと云ふ
 ことあり

三のちうふいぢばんも
さうにわけるゝとて
さうしつゝとて
とてやうなこころ
とてやうなこころ
とてやうなこころ
とてやうなこころ



それより中いぎのしきうをいふと
さうしてさうしたのゆゑさういふ
のさういふのさういふ

するものもなきにあらうとすのき
 ごとくといひてんせうのころ
 くにうろそのあつちをけん
 ぢやけんせんうーこま
 ちんせんはあうこせうし
 せんけんうけんこの
 せん



此の如きや
 棒弓矢の如く
 弓の老とあり



子
るを
風
う

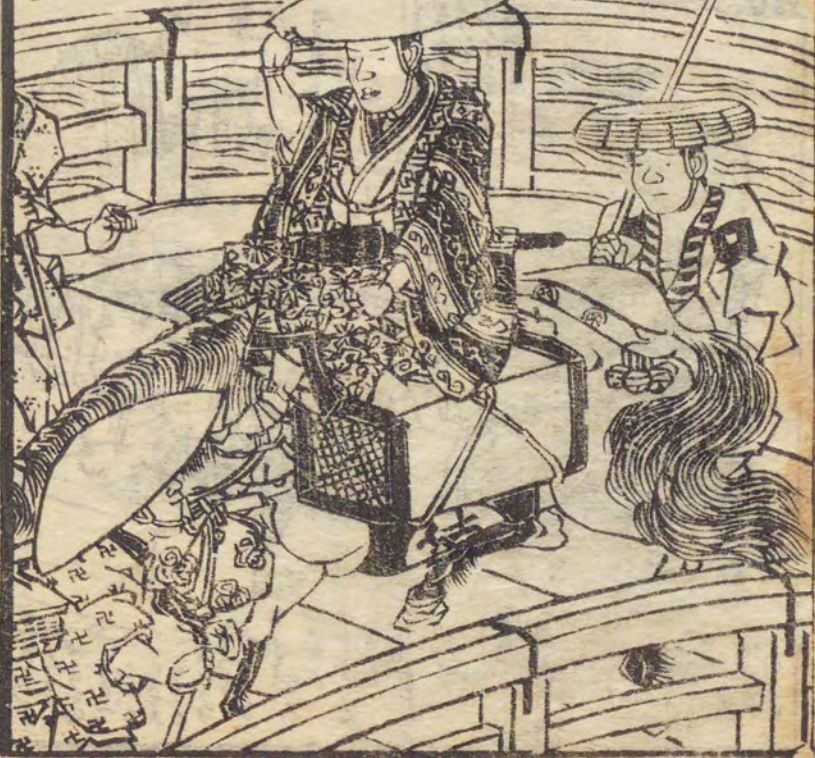
[illegible]

大まきすま
 だけをうとて
 なまきりかあそ
 ぬきまきりてん

[illegible]

[illegible]

[Handwritten Japanese calligraphy]



せいのそふあり
 せうりあふちの
 ともつより
 庄 号のめち大急の
 おのきねがのち
 くらげあふ
 庄 号のめち大急の
 おのきねがのち
 くらげあふ



[illegible]

上巳日

五

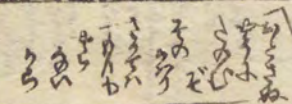
あつち
ぶんまつの
めんしやうのい
まんらふやうまん
まらんのかたて
さるてもきくありと
かんとくらもありと
ひんぎねうりやかのの
びんぐにアヤウがえド
うらくれどあんまりド
ごならのとくらにあり
おほもれやうあるこ
わりゆめろよと　ケタキ
(狂) 法師の接心車と
ひく人も　仏たのが
そへうどあれ
(任) ああで
めざとも
ありのようを捨て
いひつゝ
うけりののも
あのをとせると
ひかりのい
りやうて



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

うづのくさくさ

「さてもうか
ふさうさのうんで
たてていふとこゝに
うろがけが三つん
まゝうりやう

[illegible]

あきつゝふり

庄 井口に足とて茶やうら
 なび入をてくまふと
 まねくあぐ川
 庄 元もあめあめとてや
 あぐ川のりまてく
 うさされてある

ていへ今更の川のすゝめとすべし
あはれうらなひがあらんとまねん
だともだにて入るたの人でまがて
ゆりかたれどあそびをむかう
あそびがあつたやうにうつてゆくも
つゝあてふなりあはれかきうにはあつて
ものゝちでさがしてふさふさのひかりとなら
人のちとたまぞひろくまのいのち



このうゑに
きつてあ
むすねのうゑ
あらうら
きんぬ
むすねのうゑ
あらうら
きんぬ
むすねのうゑ
あらうら
きんぬ

あつちと
うしろで
いふよ
まねまねね
そののろく
さうして
ごとうへ
あくと
まづて
いつてもね
ありれ
まきね

あつちと
うしろで
いふよ
まねまねね
そののろく
さうして
ごとうへ
あくと
まづて
いつてもね
ありれ
まきね

あつちと
うしろで
いふよ
まねまねね
そののろく
さうして
ごとうへ
あくと
まづて
いつてもね
ありれ
まきね



あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの

あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの

あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの



あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの

あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの

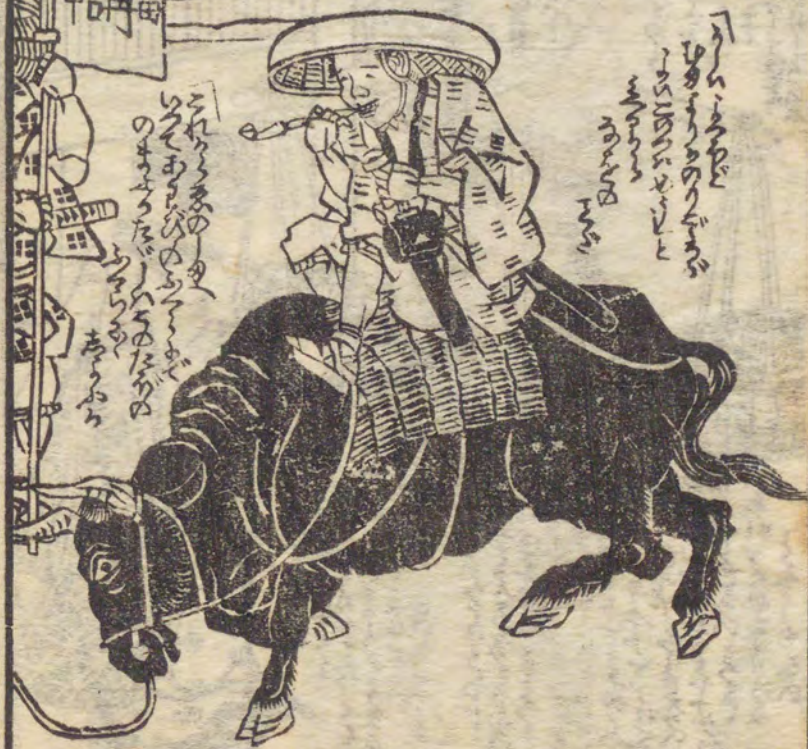
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの
あつちの山は、さうさうの

[illegible]

そけいとうろくめら
さんじのあさあぐ
えんていつて
さきさきのびやう
さのやうにさき
まゐるやうに
らんとう六つをさう
のびてをねんり
あがやとせきで
せんづのうとまが
てやといのうらあり
あがさのうらあり
とくしといふあり
このあさあらん
ぶつたのうのま
うのむをんきう
とまごにありて
あらんよ人の
いといありが
よ人きりの

江
大百味琵琶調

それうゑのしり
りてあまびの
のまゝうた
あまら
あまら

[illegible]

のちうきり
たがふてあつて
けんまごころつわ
りくもよん
ゆゑにせんひを
らひてめんま
せられそと
ごころなめん
せんめ
そうぞん
そのうち

狂
氣どろろの事と

三ノノ

多
少の

狂
のゆゑいよゝみぞ

ぐちとちんを
 とくしんぞ
 あとをこら
 のけ

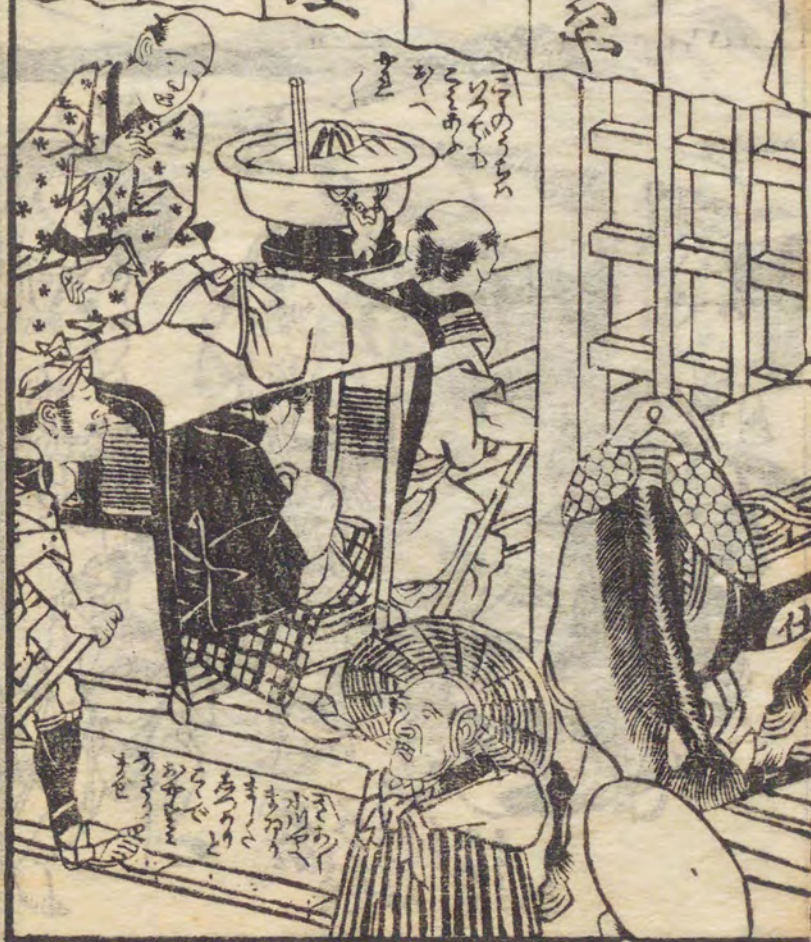
七口口口

[illegible]

七

上野の山
その下す
くさしう
ねんいひ
三度もの
うちうけ
お
かきふた
あいのど
まゆめ
そいつれ
そのち
あつち
うらなほ
又とに
えりや
またへ
あがこ
山あり
みづせきの
このよきあり
まのうけん
あきらむるよ
あせいせんたんの
かんぜんかと

五

[illegible]

雲霞も山に
 ありがれに望むと
 のまじやにとある
 雲霞のまじやにとある
 雲霞のまじやにとある
 雲霞のまじやにとある



ふつあふぐりあう
しんぜんたを
くをふあふあふ
之のひめと
うあてすい
うさあう

三

望之

これ以上

近刻
六冊

十返舎一九著
北尾美丸画



